

理事長からのメッセージ



理事長
柳澤 章

しゅう。

本学園は明治の末、1907年に創立し、日本の工業の黎明期から今日の高度に発達したハイテク社会にいたるまで、一貫して時代が求める実践力に優れた技術を修得した若い力を産業界に送り出してきました。

技術の大きな可能性 良きエンジニアへの道

みなさんは、どんな技術者、建築家、設計者、プロフェッショナルになりたいのでしょうか。何を手がけるかということに興味を持つ人は多いと思いますが、どんな姿勢で臨むかということにも関心を向けていただけたらと思います。

今日、技術の高度化とともに、エンジニアの専門領域も細分化され、一方、製品やシステムは様々な技術が複合化されています。こうした時代、総合力のある技術者が求められています。

もちろん、一人がカバーできる技術の幅には限界があります。大切なのは専門外のことや製品のユーザーなど多方面に目配りができること。そこから複雑に絡み合った問題も解決の糸口が見えてくることでしょう。

また、技術を探究し、社会の役に立ちたいのであれば、答は0か1かYesかNoにおさまりきらない、探り続けるこ

とが大切で、だからこそ、打ち込む価値があるとも言えます。

技術というものは、人間の行動、暮らし、価値観に大きな影響を与える可能性を秘めています。一つだけではない様々な視点を持ち、優れたものの価値がわかる人となっていただいたいと思います。

優れた、信頼されるエンジニアとは、最新技術を身につけているだけではありません。

さて、これからキャンパスライフを送る中で、みなさんにいちばん影響力を持つのは、おそらく友人でありましょう。友情とは、見返りを求めない関係であり、社会に出る前に、それを育むとても大切な4年間であるといえます。そして、良きライバルはかけがえのない存在となることでしょう。

みなさんの充実した大学生活を願って、私の歓迎のごとばといたします。

新入生の皆さんを心より歓迎いたします。

学長からのメッセージ



学長
波多野 純

入学おめでとう。日本工業大学工学部、大学院工学研究科、大学院技術経営研究科（専門職大学院）、留学生別科（日本語研修課程）、目標はさまざまであれ、大きな夢と希望を抱いて、本学へ入学したはずです。その夢の実現に向けて、私たち教職員は、君と肩を並べて歩

くことを楽しみに待っていました。

教育の基本は学生と正面から向き合うことだ、とよく言われます。でも、工学の教育は、正面ではなく、肩を並べ横に並ぶことが大切だと、私は考えています。実感です。工学の学びは、工具や機械を実際に使い、その成果や失敗を理論

夢の実現に向けて
肩を並べ一緒に歩こう

化する、図面を描き、模型を作って考えるなど、つねに体験的です。そのとき、教える私たちも、学生と同じ方向でものを観察し、作業をし、一緒に考えることが大切です。旋盤の作業を向かい側から指示しても、動作が逆になってしまいまゝです。図面も上下逆きまでは、印象が異なります、正確な理解ができません。

日本工業大学は、2年後、平成29年に、大学設立50周年を迎えます。学園の歴史ですと、110年になります。

この長い歴史のなかで、さまざまな教育プログラムを生み出し、実践し、改革をしてきました。「実工学教育」は、実学と工学を合わせた本学の造語で、私たちの教育理念を端的に示しています。

普通高校・工業高校それぞれの学修履歴に合わせた「工学集中・発展コース」は、他大学にはない教育プログラムです。数学・物理・英語を、専門の工学と

結びつけ、好奇心を起点に学ぶ「融合科目」は、本学が独自に開発した科目です。「何かを作ってみたい」、工学への夢を抱いて入学した君にふさわしい工房教育にも初年次から取り組みます。

大学での学びの基礎となる、論理を組み立て、思考を重ねる力や、コミュニケーション力を育む初年次教育も、充実させました。英語も大きな改革をしました。最初のころに出てくる英文の易しさに驚かないでください。知ってる英語と使える英語は違います。使える英語を目指し、ネイティブの先生とのコミュニケーションを大切にしてください。

留学生の皆さん、しっかり学び、あなたの国や地域と日本の架け橋となってください。大学院入学の皆さん。君の開拓精神が、本学の夢であり希望です。期待しています。さあ、肩を組み、一緒に前へ進みましょう。

学生自治会中央執行委員長からのメッセージ



中央執行委員長
大川 凌平
(情報工学科4年)

新入生の皆さん、日本工業大学への入学おめでとうございます。

さて、晴れて大学生となった皆さんに先輩からのアドバイスとして言いたいことが一つあります。それは「自分が何をしたいのか。何をしなければならぬのか」を考えてほしいという事です。

もちろん、大学生になり、アルバイトをしてお金を貯めたり、友人同士で楽しく遊んだり、好きな部活動やサークル活動に精を出したいと考える人も多いのではないだろうか。もちろん、それはとてもいいことだと思います。しかし、この大学生活の4年間というのは社会に出

大学生活を考えて

る為に残りわずかな4年間なのです。ただ刹那的な考えで「これをしたい、あれをしたい」と思うのではなく、大局を見て、自分の考える最終的な目標を考え、それを達成するには何をしなければならぬのかを考え、実行すべきでは無いのでしょうか。

説教臭くなってしまいました。が、この大学生活をどういった風に捉えるか、どう過ごしていくかは皆さん自身が考え行動していくことによって様々な変化をしていくでしょう。学業を疎かにしない程度に4年間を楽しんでください。

最後になりますが、皆さんにとっての大学生活が日本工業大学で過ごせてよかったと思うような4年間になることを祈っています。

私達学生自治会も微力ながら大学を盛り上げていけるように頑張っていきたいと思っています。

専門職大学院
だより

MOT開学10周年 記念事業について

技術経営研究科 研究科長・教授

小田 恭市

本技術経営研究科は、技術系中堅・中小企業の経営者・後継者・幹部社員などの技術経営人材の育成を進め、開学10年を経て平成26年度には250人以上の修了生を輩出することが出来ました。また、公益財団法人大学基準協会より平成27・31年度の5年間にわたって経営系専門職大学院基準に適合している認証評価を得ました。これも偏に、修了生・現役院生、教職員の皆様のご協力の賜物と衷心より感謝申し上げます。この開学10年の実績を記念し、5月23日(土)に学士会館における「中小企業技術経営シンポジウム」の開催、「中小企業技術経営実践講座(Ⅱ)」の出版など記念事業を実施することとなりました。

「中小企業技術経営シンポジウム」では、中小企業庁企画課水野正人調査室長に基調講演を頂くとともに、パネルディスカッションとして、中小企業基盤整備機構 渡部寿彦

理事、早稲田大学商学部 鶴飼信一教授、西武信用金庫 落合寛司理事長、墨田区産業経済課 郡司剛英課長、久米繊維工業株式会社 久米信行代表取締役、東成エレクトロビーム株式会社 上野保代表取締役会長、ジャパンプローブ株式会社 小倉幸夫代表取締役社長の皆様にご参加をお願いしています。「日本の中小企業経営、このままでよいのか?」、「中小企業の『成長』とは?」などをテーマに、上記のメンバーによる産学官の共同研究成果をご報告致します。また、当日にはホームカミングディを併せて開催しますので、修了生の皆様は楽しみにして下さい。

「中小企業技術経営講座(Ⅱ)」の出版では、専任・教員教授及び修了生の有志の皆様方の「得意とする専門領域」「近年に持たれている問題意識」を中心に執筆された原稿を掲載しております。今後の皆様のビジネスに役立つ内容が盛りだくさんとなっております。

のびる期待下さい。

のでご期待下さい。

また、今後の10年を見据えて、本技術経営研究科では、人材育成のみならず、研究や経営支援などの活動を行う「中小企業の総合的拠点」の形成を目指しております。この拠点形成のため募金活動を始めましたので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

英語・ドイツ語・中国語等の語学、初年次教育、キャリア教育などの文系教員と、数学、物理、化学などの理系教員で構成され、各自の研究と共に、それぞれの広い領域の科目を担当しています。新入生が受講する科目も多いため、スチューデントアワー（各先生への個別相談の時間）も、ぜひご利用なさることをお勧めします。なお、この個別相談の時間について

大学に入学することは、人生の中の大きな節目にあたります。世の中のマスコミに登場する会社の社長や政治家の多くが自身の大学生活を振り返った時に「大学で、勉強以外で教師や友人達と深く触れ合った体験が人生の転機になり、財産になりました」といった内容を語っています。言葉をかえれば、青春時代の勉強と友人との触れ合いの相乗効果によって、社会人として生きていくための人格形成がなされるということだと思います。皆さんにとっては日本工業大学

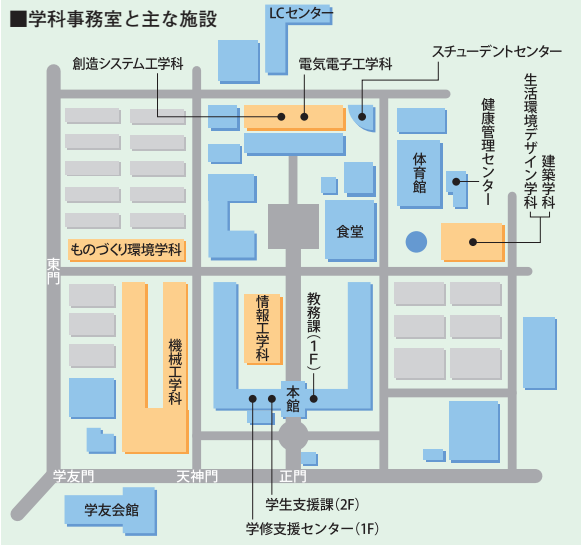
大学に入学すること「新しい物に興味を示す積極性」「教えた事を吸収できる能力」「学び続ける姿勢」「明るく、元気」といったキーワードで表される人柄です。つまり、社会に出て活躍するためには、このような資質を持つこと、あるいは高めることが必要とされているのです。

そのためには、良き友人との交流が不可欠です。そして、効率良く楽しみながら身につける事ができるのが、趣味を同じくする仲間が集まるクラブ活動です。クラブでは、新入生として先輩に教わり、進級することで後輩を指導し、そして、クラブのリーダーとして全体の運営までを四年間で体験することが出来ます。もうおわかりでしょう。熱心にクラブ活動を行うことで、社会が要求する能力を養いながら身に付けることができるのです。

冒頭に「友人との触れ合いの相乗効果」によって人格が形成されることを述べましたが、勉強の土台があってこそです。「よく学び、よく遊べ」大

学生生活は十二分に楽しんでください。そして、数

十年後「日本工業大学における友人との触れ合いが私の財産です」と言えるように願っています。



新入生対象の主なスケジュール (2015年4月初旬)	
4月1日(水)	オリエンテーション(教務部、学修支援センター、英語教育センター、女子学生対象など)、学生証交付、健康診断
2日(木)	オリエンテーション(各学科)、新入生に対する調査
3日(金)	入学式、オリエンテーション(外国人留学生対象、編入生対象)
4日(土)	オリエンテーション(学生支援部、学生自治会)、女子学生交流会
6日(月)	フレッシュマンキャンプ(1泊2日)※電気電子工学科は5日(日)から
8日(水)	授業開始

大学生活のスタートにあたって

入学後の大まかなスケジュールなどについてご案内します。

■まずはオリエンテーションをよく聞こう

入学式の前後には関係部署からのオリエンテーションが実施されます。例えば、教務部は履修方法や単位取得などについて、学修支援センターは利用の案内、学生支援課は学生生活全般の心構えのほか、女子学生や留学生向けの対象者別の説明を行います(左下の表を参照)。

疑問や不安に思うことがあっても、他人の前では質問しにくいことがあるかもしれませんが、そのような場合には、担当の先生に直接相談するなどして、一つ一つ解決していきましょう。

■授業のスタートはフレッシュマンゼミから

オリエンテーションの期間が終わると、いよいよ授業が始まります。その第一歩が、1年次春学期の必修科目となっている「フレッシュマンゼミ」です。各学科を20人前後の少人数クラスに分け、大学での学び方や各学科の専門分野について、クラス担任の先生が説明を行います。

■履修申告について

大学では必修科目のほか、自分で選択する科目もあり、履修申告を行なったうえで受講します。授業開始日から10日ほどの間は試行期間となっております。各科目の内容を正式に受講前に体験することが出来ます。申告までの過程で疑問に思うことがあったら、担当の先生やフレッシュマンゼミの担任の先生に相談してみてください。

■学修支援センターを利用しよう

学修支援センターでは、常時、相談を受け付けています。相談時間は月曜から金曜の午前11時から午後6時まで(休講期間は除く)。授業内容の質問から、大学生活や人間関係の悩みまで、専門の先生(チューター)が相談に応じます。気軽に利用してください。

■大学生活は人間関係づくりの場

大学生活においては、人間関係づくりがとても大切です。新しい友達をつくり、先輩とも親しくなるために、クラブ活動や学生自治会などに積極的に参加することをお勧めします。

■研究室や工房へ積極的に訪問しよう

研究室に正式に所属するのは3年次、学科によっては4年次になってからですが、オープンキャンパス参加時などに興味をもった研究室や工房があれば訪問してみたいかがでしょう。1年次から研究に取り組み、立派な成果を残した先輩もいます。



学生相談室
畑屋 真由美

大学では、高校までと違い学修を含めた生活全般の大半を本人の自主性に任されます。それは「自由」である一方で、「迷い」「悩み」を生むこともあり、成長の機会でもあります。相談室では心の専門家が相談に乗ります。気軽に来てみてください。



学修支援センター
川合 耕一郎

授業内容や履修計画、大学生活全般に関する相談はもちろん、さらなる深い学びへと繋がるサポートを提供します。学びについて相談があれば、まずは気軽に立ち寄ってみてください。スタッフと学生ボランティアが君の来室を待っています。



就職支援課
初見 範子

未来の自分は、あなた自身が作り上げていくもの。だから、この4年間でどのように過ごすかによって大きく違ってきます。自分の可能性を信じて何事にも意欲的に挑戦してください。就職支援課は、あなたの就職活動をサポートします。



LCセンター
梅崎 栄作

人は心身を健康に保つためには、体に適度な運動と心に栄養が必要です。心に栄養を与えてくれるのが読書です。メールやインターネットだけではなく、心に残る大切な本に巡り会える可能性に満ちたLCセンター(図書館)と仲良くなって下さい。



NITクリエイト
西垣 昌彦

学生の皆様のキャンパスライフが充実したものとなるよう、学生食堂、カフェテリア、売店(書籍・文具・飲料水の販売)の運営、さらには、アパート斡旋、資格取得支援、保険代理店、学内清掃、警備等の業務を行っています。ぜひご利用下さい。



財務課
磯 雄二

財務課では、学費の延納手続き・相談、追試等の料金収納を行っています。また、物品の調達・支払、財産管理等も行っています。「縁の下の力持ち」として、皆さんが充実した学生生活を送れるようスタッフ一同サポートしてまいります。



学生支援課
鈴木 良裕

学生支援課はクラブ活動や奨学金、学生証や学割の発行等、学生生活に関すること全般を扱っています。困ったことがあればぜひ相談にきてください。また、充実した学生生活を送るために、委員会やクラブ活動にも積極的に参加してください。



教務課
日下部 恵美子

教務課では、①履修申告②休学・退学③試験や成績④在学証明書等の発行などを取り扱っています。わからないことがありましたら気軽にお越しください。みなさんが充実した学生生活を送れるようサポートします。



スチューデントラボ
上野 貴博

スチューデントラボは、全学科の皆さんが利用できる「ものづくり」の施設です。機械加工・電子工作・木工などに必要な工具を揃えています。個人、団体問わず専門スタッフによる指導が受けられますので、積極的に活用してください。



健康管理センター
城戸 卓男

健康管理センターは、学生及び教職員の健康相談や応急処置及び運動指導を行っています。毎週水曜日は、校医による健康相談も実施していますので気軽においでください。定期健康診断を受診した学生には、健康診断証明書を発行いたします。



総務課
大塚 竹郎

総務課は、学生の皆さんとの接触が多くない部署ではありますが、皆さんのご父母で組織されている「後援会」に係る業務のほか、幅広い業務を担当しています。その名の通り何でも受け付けるところですので、遠慮なくご相談下さい。



英語教育センター
廣田 純子

学内留学をしてみませんか。センターに通って、英語が話せるようになった先輩が何人もいます。英会話を始めたい人、外国の文化に興味のある人、授業の復習やTOEIC、英検の勉強をしたい人、ぜひセンターの扉を開けてみてください。

私たちが皆さんの大学生活をサポートします！

